

〈論文〉

ロシアの昔遊び「ゴロトキー」 その歴史と現状

岩 本 眞 樹

1. はじめに

ゴロトキーは、広く知られているように古くからあるロシアの遊びである。大ロシア百科事典によると「Первые упоминания о городках относятся к Древней Руси」(最初のゴロトキーについての言及は古代ルーシのものとされる)とある。(Большая Российская энциклопедия [2007]: 476)そして、ロシア民族ばかりでなく、ロシア帝国に属することとなったほぼ全ての民族の内に広まっていたこの遊びは、現在「ロシアが、全民族に共通で全ての国民のものとみなすことのできる数少ないスポーツの一つであり、民族文化の一つとして切り離せない歴史と伝統の一部となっている。」(«История»)

ゴロトキーは、ピョートル I 世や、V.I. レーニン、IV. スターリンなど多くの傑出した指導者が好んだ。さらに生理学者 I.P. パブロフや、作家では A.P. チェーホフ、L.N. トルストイらが熱中したと言われている。

1950-70年代には大衆スポーツとして非常に盛んとなり、その人気はサッカーに次ぐものとまで言われた。しかしソビエト崩壊後、人気は後退し、忘れられていった。

しかし、その後ゴロトキーは復活し、この20年の間に再び注目をあびている。多くの大会が催され、ロシア国内ばかりでなく、世界大会も再び開催されている。本稿ではこの数世紀にわたりロシアの人々に愛されてきたゴロトキーとは一体どのようなスポーツなのか、その特徴と歴史を概観するとともに、現在このスポーツが、特に幼児の身体的・知的発達に有効であるという点で見直され、幼児教育に取り上げられているということ、また障害を持つ人々や高齢者にも人気があるということに着目し、復活の現状の一端を取り上げ、今後の可能性について考察する。

2. ゴロトキーのルール

まず、ゴロトキーとはどのような遊びなのであろうか。

ロシア語で「小さな町」を表すゴロトキーは、木製の棒を投げて競う、ボウリングに似た遊びと言われる。(実際には共通点は少ないのだが、目的と試合の構成が似ている。)プレイヤーは、一定の距離離れた位置から、2m四方の陣地(「ゴラド」:ロシア語で街の意味)の中にある5本の円筒形の木(ゴロトク)に向かって木製のバット(棒)を投げ、その木(標的:ピン)をできるだけ少ない打数で陣地の外に叩きだした人が勝ち、というゲームである。

(1) ゴロトキーのコートと道具

ゴロトキー用のコートは平坦で水平な場所に、長さ22~30m×幅12~15mのサイズで作られる。【図1】

短い辺の側に2m×2mの四角形を2つ描く。これが「Город Горад」である。この中に5本の「Городок Гродок」からなる標的が置かれる。この「Город Горад」の向かい側の一定の距離離れたところに平行に2本ずつ短い線(2m)が引かれる。1本は「Город Горад」から13m離れたところに、もう1本は6.5mの距離のところ引く。遠い方の線を「Кон Кон」と呼びこの線にプレイヤーは立ってバットを投げる。

(2) ゴロトキーの道具

ゴロドク

直径5cm、高さ20cmの円筒状(あるいは正八角形柱)の木。5本で一組とし並べて標的を作る。試合をするためには10本が必要。

バット

長さ1m以内。軸は円筒形。

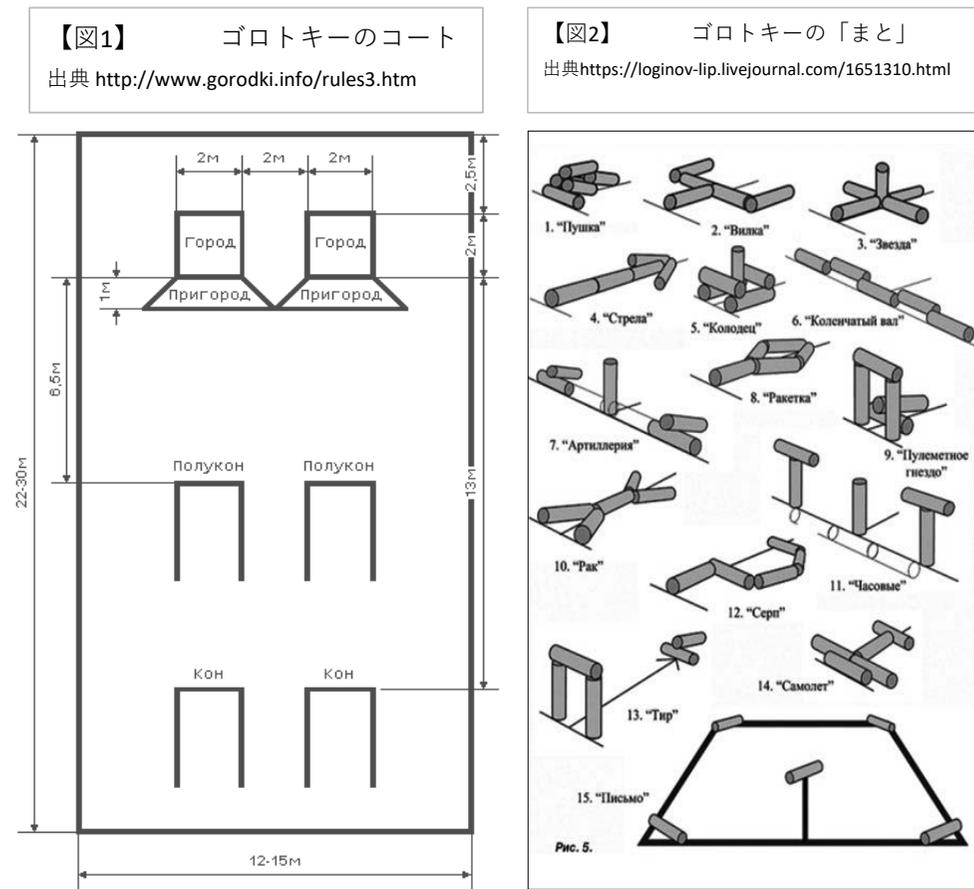
古来、白樺や樺、ハナミズキなど堅い種類の木から作られていたが、1970年に金属張りのバットも許可された。ポリマー製のバットを用いることで軽くなり、女性の参加が増えた。公式試合では、成人女性は重さ2.5kg以下、青少年の女子は2kg以下と決められている。

(3) ゴロトキーの「まと」(標的:фигура)

ゴロトキーの試合には、木の棒を様々に並べた15種類の標的が用いられる。この標的

の型には番号と名前がついており、1番から順番に打っていくことになっている。その15個の標的の全ての型、名前、番号（順番）を表わしたものが【図2】である。

子どもや青少年の試合では、ピンの数を少し減らして、この内の10個（順番通りに示すと1、2、5、4、7、12、9、14、13、15）が用いられる。



「まと」の型の名称は以下の通り。

1. Пушка (大砲) 2. Вилка (フォーク) 3. Звезда (星) 4. Стрела (矢)
5. Колодец (井戸) 6. Коленчатый вал (クランクシャフト)
7. Артиллерия (砲兵隊) 8. Ракетка (ラケット)
9. Пулеметное гнездо (機関銃の銃座) 10. Рак (ザリガニ) 11. Часовые (歩哨)
12. Серп (鎌) 13. Тир (射撃練習場) 14. Самолёт (飛行機) 15. Письмо (手紙)

(4) ゲームのルール

プレイヤーは同じ人数で構成する2つのチームで行い、個人戦も団体戦もある。両チームは自分の「Город ゴーラド」に「Городок ゴロドーク」(標的)を並べる。右側のチームからスタートし、バットを投げて標的を「Город ゴーラド」から叩きだすように努力する。それぞれのプレイヤーは順番に2回ずつ投げることができる。まず「Кон コン」に立って投げ、1回目でもし1本でも叩きだせたら2回目は「Полкон ポルコン」から、つまり半分の近さから投げることができる。(しかし15番の「Письмо (手紙)」だけは、「Кон コン」からしか投げることができない。) 順番にバットを投げていくが、もしプレイヤーが1本の「Городок ゴロドーク」も叩きだすことができなければ、同じチームの次のプレイヤーが再び「Кон コン」から投げる。1番の「型」が「Город ゴーラド」が打ち出されたら、次の「型」が並べられる。同様に15番まで進める。

勝敗は、全ての「型」を叩きだすために費やした打数で決め、少ない方が勝ちとなる。

3. ゴロトキーの歴史

ゴロトキーの歴史について書かれた文献としては、E.A. ポクロフスキーの『こどもの遊び：主としてロシアのもの』や、B.G. デレベンスキーの「ゴロトキー遊びの歴史」をはじめとして、V.A. ヴァニユシキン、I.A. タラセヴィチの「ロシア連邦とスベルドロフスク州のゴロトキー・スポーツの現在の傾向」などの論文がある。また1993年に設立された「ロシアゴロトキー・スポーツ連盟 («Федерация Городошного Спорта России»)」や、「国際ゴロトキー・スポーツ連盟 («Международная Федерация Городошного Спорта»)」さらに「モスクワゴロトキー・スポーツ連盟 («Федерация Городошного Спорта города Москвы»)」その他の各地域に置かれたゴロトキー連盟の公式サイトでは歴史全般についてまとめられている。また国家のスポーツの歴史については、「体育とスポーツの歴史：教科書」を参照した。これらをもとにゴロトキーの歴史をまとめていく。

(1) ゴロトキーの起源

この遊びが記された最初の資料としては、19世紀初めに作成された3つの美しい版画アルバムが知られている。まず1803-1804年にロンドンで刊行されたイギリスのJ.A. アトキンソン (J.A. Atkinson 1775-1830) とJ. ウォーカー (J. Walker 1760?-1822) による三巻本『ロシアのマナー、風習、娯楽のピクチャレスク図鑑』(Atkinson J.A., Walker J. *A Picturesque representation of the manners, customs, and amusements of the Russians*,

v. 1-3, London, 1803-04, 1812) がある。¹ この画集に収められた一連の彩色版画は、18世紀後半から19世紀頭まで長期にわたりロシアに滞在したJ.A. アトキンソンのスケッチに基づき作成された。彼は民衆の日常生活を事細かに観察した。作成した版画には中庭での遊びを描いたものもありゴロトキーは第2巻に収められている。現在この版画集はロシア国立公立図書館に所蔵されている。

このJ.A. アトキンソンらの絵に続くのは1805年、ライプツィヒで出版された『低階級のロシア人の遊びと娯楽』(Geissler J.G.H. *Spiele und Belustigungen der Russen aus den niedern Volks-lassen*, Leipzig, 1805)と題された画集である。ドイツの画家Ch. G.H. ガイスラー(Ch. G. H. Geissler (1770-1844))による彩色版画で、この中に二枚のゴロトキーの絵が収められている。彼は1790-1798年にロシアに滞在し、ロシア民衆の生活に深く関心を抱いた。【図3】

もう一つの版画は、ロシアの画家—旅行家として有名なE.M. コルネーエフ(E.M. Корнеев 1780-1839)による版画アルバムである。このアルバムはプーシキン博物館に保存されている二巻本で『ロシアの民族、あるいは帝国の様々な民族の風習、風俗、衣装の記述』(Rechberg Ch. *Les peuples de la Russie ou description des moeurs, usages et costumes des diverses nations de l'empire de Russie, accompagnée de figures coloriées*, v.1-2, Paris, 1812-13.)と題されており96枚の版画が収められている。1812-1813年にパリにおいてフランス語で出版された。皇帝アレクサンドル1世が派遣したシベリア、カフカス、沿ボルガ地方の調査遠征隊に同行したコルネーエフは様々な民族のタイプ、その地方の民衆の衣装や外見的特性、そして生活の様々な場面を写生した。ロシアの祭りや習慣、風習、遊びが描かれており、当時の様子を知るための大変貴重な一大民俗誌学的な性格を持つ資料となっている。(Пахомова Л. [2019]) このアルバムの中の3枚がロシアの遊び「スヴァイカ」「バープキ」そして「ゴロトキー」について描かれている。

【図4】

これらの絵の存在から、19世紀初頭には既にこの遊びは成立しており、また18世紀にあったことは間違いないと考えられる。また絵に描かれた様子から、基本的にはほぼ現在と同様のやり方で遊んでいたことが伺い知れる。

1点、現在のゴロトキー・スポーツでは失われてしまい見ることのできない「遊び」としての特徴が表されている点に注目しよう。【図3】のガイスラーの絵は遊びの最後の場面であることが、人を背負った男性が描かれていることからわかる。これはゴロトキーの

1 これについては坂内徳明「ロシア風俗百景」2014-3に詳しい研究がある。

遊びに特徴的な、いわゆる「罰ゲーム」である。【図4】のkolneevの絵の右手後方にも同様に背負った人が描かれている。E.ポクロフスキーはこの「罰」について「普通、遊びの後、負けた人は勝った人を背中に背負って（ヴャトカ行政区では肩に乗せて）ゴーラドからゴーラドへ前もって決めた回数運ぶ。」(Покровский [1997]:353) と述べている。また絵には表れていないが【図3】のアトキンソンの絵に添えられた解説にもこの罰ゲームを描写して「ばからしい」²ものだと記されている。この特徴からもこれらの絵がゴロトキーについて描かれたものだとわかるのである。この罰ゲームは後述するスポーツへの発展の際、あるいはその前に失われ、現在に至っていると推測される。

【図3】Ch.G.H. ガイスラーの「ゴロトキー」



Художник Х.-Г. Гейслер. Городки. Geissler J. G. H. *Spiele und Belustigungen der Russen aus den niederen Volksklassen. Leipzig, 1805.*

参照：<http://almanax.russculture.ru/archives/516>

【図4】E.M. コルネーエフの「ゴロトキー」



Художник Е. М. Карнеев. Городки. Rechberg Ch. *Les peuples de la Russie ou description des moeurs... des diverses nations de l'empire de Russie. Paris, 1812. Vol. I.* 参照：<http://almanax.russculture.ru/archives/516>

また、ロシアの各地域でゴロトキーは様々な名称を持っていた。例えばロシア中部地帯、旧トボリスク県、旧オムスク県では、《рюхи リューヒ》、《чухи チューヒ》、《чушки チューシキ》、《городки ゴロトキー》と呼ばれ、旧ペルミ県では《городины Гроジーニ》、旧ヴャトカ県では《деревянные бабки Желевьянниエ・バプキ》、旧チェルニゴフ県では《поросята Порошата》《кегли ケグリ》、旧ヘルソン県では《сракли Сракли》、旧クバン州では《клетки Клетки》などと呼ばれていた。しかし、ほとんどの場合、「ゴロトキー」と呼ばれていた。E.ポクロフスキーはこの遊びの名前について、「他のロシアのゲームでも丸または四角のコートの名前は「ゴーラド」呼ばれており、ここからきているのかもしれない。」と述べている。(Покровский [1997]:349) (ゴロトキーは、ことばの形からすると、ゴーラド(町)の指小形(小さな町:ゴロトク)の複数形である。)

2 The punishment for the loser is ludicrous, as he is obliged to carry the winner on his back a certain number of times round the place, amidst the jokes and scoffs.
<http://elib.shpl.ru/ru/nodes/28-vol-2-1804#mode/inspect/page/55/zoom/4>

その後、帝政時代には民衆ばかりか、貴族の間でも、そして皇帝さえも好んで遊んでいたというゴロトキーは、1917年の国の体制変化にも打撃を受けることはなかった。それどころかソビエト時代にはゲームは民衆の娯楽から本格的なスポーツにと転換する。

(2) ソビエト時代のゴロトキー（黄金期へ）

これ以降の歴史の部分に関しては、特に断りのない限り「ロシアゴロトキー連盟」の公式サイトの記事に依拠した。

それまで、「娯楽」の一つとして、ある程度自由なルールで遊ばれていたゴロトキーは1920年から1923年にかけて、体育の教授法専門家C. スイソエフ（С.В. Сысоев）のイニシアチブにより統一した規則を持つスポーツの一つとなった。名称はゴロトキー・スポーツ（городошный спорт）となる。競技のルールについても初めて定められた。

新しく生まれ変わることとなったこのスポーツは、青少年及び成人にとって身体的・知的発達にきわめて有効なものだと考えられた。（Каргашова., Карасева. [2018] : 165）

1923年8月19日には、ソ連ゴロトキー・スポーツ連盟が設立された。また同年、モスクワでは第一回全ソ競技会が開かれた。

このころのソ連では、1920年代に入り国内の情勢が安定への兆しを見せ始め、文化の向上と教育の発展に大きな注意が払われていた。大人も子どもも含めた国民全ての健康のための身体活動とスポーツの必要性が強調された。（Мельников., Трескин [2017] : 161）1923年、ゴロトキーがスポーツとして成立した年には、最高体育会議の設置が決定された。この最高体育会議はソビエト体制化における最初のスポーツ行政管理機関となった。（Мельников., Трескин [2017] : 162）

テニスやゴルフ、ビリヤードなどがブルジョアスポーツとして敬遠されていたのに対し、ゴロトキーはプロレタリアートの遊びとみなされ推奨された。1928年にはモスクワで初めて行われた社会主義者のスポーツ大会：全連邦スパルタキアードの種目にゴロトキーが入ることになった。この大会にはソビエト全土から出場すると共に海外からも17ヶ国からの参加があった。（Мельников., Трескин [2017] : 164）

ゴロトキーのルールは1923年に定められて以降、何度か小さな変更が加えられてきたが、その頃、道具の面での変化があった。それまでは地面をコートにして、また木製のバットを用いて行われていたのだが、1920年代にはコンクリート製、またアスファルト敷きのコートが現れ、また金属張りのバットが使われ始まる。1933年には新しい規則が定められ、15種類の標的の型が定められ、様々な点で厳密な規定が作られた。そしてこれらの規則は今もほぼ変わらずに適用されている。

1936年には全連邦ゴロトキー・スポーツ選手権大会が、個人戦、団体戦ともに行われ、以降毎年実施されるようになった。このことは、より一層このスポーツが広まる契機となったと考えられる。

第二次世界大戦後、ゴロトキーはソ連人気スポーツ・トップ7に入るようになる。1950年～70年にゴロトキーは黄金期を迎える。ゴロトキーは最も人気のある大衆スポーツとなった。当時の競技人口は35万人を数え、ゴロトキーは全ての共和国も含めたソ連全土で行われるようになった。ゴロトキー・スポーツのコートはほぼ全てのスタジアムに、休暇の家に、保養地やキャンプにあった。さらに公園や中庭、工場の敷地にも見られた。広く開催されるようになった中等学生の協議会の種目ともなり、ピオネールのゲームとしても行われた。(Карташова., Карасева. (2018) : 165-166)

(3) 衰退と復活

ソビエトの崩壊後、ゴロトキー・スポーツの競技人口は急激に減少した。娯楽として楽しむゴロトキーの人気は徐々に陰り、全くゼロにはならないまでも大衆性を失った。道具の生産は中止され、修理が必要なコートも放置され、多くが荒廃していった。国内のほとんどの地域で大会もなくなった。こうして1992年には全ソ連邦ゴロトキー・スポーツ連盟は解散することとなった。

しかし、ゴロトキー・スポーツを愛する人々は、このスポーツを継続・維持しようと努力した。こうした努力と熱意に支えられ、1993年1月15日「ロシアゴロトキー・スポーツ連盟」が設立された。それに続いてウクライナやベラルーシでも、ゴロトキー・スポーツ連盟ができた。その後「国際ゴロトキー・スポーツ連盟」も作られた。これにはフィンランド、エストニヤが参加し、ドイツ、スウェーデン、ラトビア、モルドヴィア、カザフスタンのゴロトキー・スポーツ団体も加わった。1995年よりヨーロッパ選手権、2001年からは世界選手権も行われるようになった。次第にゴロトキー・スポーツとしての形は整ってきたが、以前のような国民的スポーツとしての繁栄には程遠かった。

その後、国内全域にわたり地域連盟が作られ始めた。目的は、ゴロトキー・スポーツを、スポーツ選手だけでなく、国民皆のスポーツにすることであった。

その目的に最も近づいたのはモスクワ、サンクト・ペテルブルク、トムスク州、クラスノダール地方だった。これらの地域では新しいコートが作られ、寒い時期にも練習や試合ができるような設備も整えられた。青少年育成のためのセクションや学校ができ、国の大会に出るような高いレベルの選手からコーチを受けた。この国民的スポーツを宣伝するための様々な大規模な大会が行われ、学校や幼稚園でも教える機会が作られた。

もちろん、いくつかの地域でのこうした急激な発展には国の役人や地域政府の支援や注目があつた。2009年よりモスクワのゴロトキー・スポーツ連盟を率いたのはモスクワ市ユーゴザーパド行政区長 A. チェリシエフだつた。2000年より2009年までの10年間、サンクト・ペテルブルクのゴロトキー・スポーツ連盟のトップを務めたのは、サンクト・ペテルブルク副知事、モスクワ行政区長 K. コンダクトフであつた。コンダクトフはその後も名誉会長も務めた。

2000年代には、昔のソビエト時代のように、再びゴロトキーは政府の要人たちを惹きつけ始める。

2006年8月8日プーチン大統領はイジェフスク市での「第6回全ロシア農村スポーツ大会」で個人的にゴロトキーを試み、その様子はテレビでニュースとなりテレビでも放映された。（«Путин сыграл в городки» [2006]）

2010年の夏にモスクワで開かれた国際スポーツフォーラム「ロシアはスポーツ大国」は、一般来場者が30万人と言われる巨大な大会であつたが、（«Москва готовится принять Международный спортивный форум» [2010]）ゴロトキーコートの会場ではスポーツ・観光・青少年政策庁の V. ムトコ長官が熟練した腕を披露したのをはじめ、副長官、モスクワ副市長バイダコフやスポーツ局長も腕試しをして大きな注目を集めた。（Левко Д. [2013]）

その後、ロシア連邦スポーツ庁との強固な連携は、ゴロトキー・スポーツ連盟にとって優先課題のひとつとなる。同庁では「統一年間行事日程」に沿って、全ロシア選手権や大会に対し財政的支援を行うようになった。また同庁の支援のもと2011年にサンクト・ペテルブルクで行われた第5回世界選手権ではロシア選手団はめざましい成績をあげた。22個のメダルを得てロシアチームは2年ぶりに世界チャンピオンの座に着いた。さらに青年選手団も銀メダルを獲得した。このときスポーツ庁からは選抜チームのユニフォームも支給され、合宿の開催に資金も支払われている。こうしたゴロトキー・スポーツの発展に対する全面的支援と援助に対し、スポーツ・観光・青少年政策庁の V. ムトコ長官にゴロトキーのスポーツとしての正式認可 88周年に合わせ、ロシアゴロトキー・スポーツ連盟より賞が贈られた。（Ванюшкин.,Тарасевич. [2017]）

さらに、国の公式承認の現れのひとつと考えられるのは、2011年ロシア郵便からゴロトキーを描いた封筒が発売されていることだ。まさにバットを投げようとしている男性と15の標的が描かれた。上部に「ゴロトキーは国民の遊び」と書かれている。発行部数は4000部であつた。

2013年2月19日にはプーチン大統領は民族間関係会議において民族スポーツの発展

を呼びかけた。各スポーツを国民が知り、誰にでもできる、まさに大衆スポーツとして我が国で発展するようになることが重要だと述べた。(«Москва готовится принять Международный спортивный форум» [2010])

翌 2014 年からは、「全ロシア民族スポーツ及び非オリンピックスポーツフェスティバル」が行われており、民族独自の伝統と習慣、数千年にわたる歴史の保存と発展に寄与するものであるとされるこの祭典の種目にゴロトキーも選ばれている。(«Первый всероссийский фестиваль национальных и неолимпийских видов спорта завершился в г.Ульяновске» [2014])

そして 2016 年 9 月 22 日、ロシアスポーツ庁はゴロトキー・スポーツの登録を、国内スポーツから国際スポーツに変更した。これまでの海外試合での活躍と成果を評価したものだ。今やロシアチームは国際舞台でのさらなる活躍が期待されている。これはモスクワだけでなくロシアの、さらに国際的なゴロトキーの歴史上大変意義のあることであった。

この 20 年間で大都市を中心に復活し、再び新しい発展の歩みをはじめているゴロトキーであるが、モスクワに関して言えば大躍進であった。特にここ数年間は非常に速いテンポで成長した。「青少年も幼児も高齢者も含めたモスクワ市民のゴロトキーへの関心は非常に高まり、クラブの数も大会への参加者数も著しく増えた。」(Чельшев А.В. [2017 a])

コートの建設も進み、幼稚園での促進事業も行われる中、競技人口の増加に伴い指導者不足の問題も持ち上がっている。2018 年度のモスクワ連盟主催の大会の数だけで 30 を超え、参加人数は約 2500 人であった。しかし全国レベルでの普及に関しては、今後の大きな課題である。

現在、ロシアゴロトキー連盟は国内の 30 地域以上の支部を持ち、国際ゴロトキー連盟はベラルーシやエストニアをはじめドイツ、フィンランド、アゼルバイジャンなど 12 ヶ国が加盟している。

4 ゴロトキーの現状と展望

このようにロシアで再び発展を続けているゴロトキーであるが、次は、現在の実践の状況に注目したい。

(1) ゴロトキーの魅力

ここで、改めてゴロトキーの持つ魅力、人気がどこにあるかを整理しよう。昔から長く人々に愛され、惹きつけてきた特質が復活の状況にも反映されていると考えられるからだ。

体育教師 S. ジュルベンコは、このスポーツの優れている理由をロシアゴロトキー連盟のサイトで述べている。(Журбенко С. М. [2011]) これらは次の8つにまとめることができるだろう。

1. ルールが易しい。
2. 年間を通じて屋外の新鮮な空気の中で行うことができる。
3. 年齢も性別も問わない。
4. 道具は手に入れやすく種類も多い。価格も安く経済的である。
5. 筋力と敏捷性、狙いどおりに当てる力、持久力、運動の調整力を高める。
6. 歩く、身をかがめる、しゃがむ、身体を回してバットを投げる、という一連の動きを交代させつつ連続で行うことで運動密度が高まる。
7. 呼吸器、心血管系にプラスの効果があり、総合的な体力を上げる。
8. バットの重さや投げる距離を様々に変えることができるため、姿勢矯正、筋骨格系の強化等の運動療法上に非常に効果がある。

このように、ゴロトキーの利点は、まずはこの遊び／スポーツが健康増進や身体能力向上のための素晴らしい手段であるということである。そしてルールも易しく、簡単に負荷を調節できることから幼児も、大人も、お年寄りも、世代・年齢を問わずに楽しむことができる。「誰にとっても身近で親しみやすい」ユニバーサルな点はゴロトキーの素晴らしい点であり大きな魅力であろう。大会の名称にもよく使われる表現「みんなのゴロトキー городки для всех」「ゴロトキーに垣根はない городки без границ」のように、「いつでも、どこでも、だれでも」楽しめる、その良さや親しみやすさを知ってもらい、競技者の幅を広げていくことは発展や維持の鍵ともなるのではないかと推察する。

以上のようなゴロトキーの魅力を中心として、近年（ここ5年間程度）の活用の実態や実践方法について、現在ロシアで関心が高まっている幼児への広がりを中心に紹介する。その他、障害を持つ人々や高齢者の人気スポーツとして、また施設における運動・リハビリとして活用されている事例にも触れる。手段としては各ゴロトキー連盟の公式サイトによる競技カレンダーやニュース、各地域・市長村等の公式サイトの記事及びインターネット新聞の記事より採取した。

(2) 幼児（未就学児5-7歳）の「運動遊び」としてのゴロトキー

①ゴロトキーの運動プログラムへの適用

ゴロトキーは幼児に必要とされる身体的・心理的発達にかなった運動遊びの一つである

として幼児教育機関における補充教育³・運動プログラムとして取り入れられるようになった。近年の研究でも、スポーツの要素を持つこの遊びが、就学前の年齢の子供にとって、非常に取り組みやすく、運動発達における効果的な手段及び方法の一つであるということが明らかとなっている。(Ковалевский [2005] : 21)

ロシア教育省は2014年10月にロシアゴロトキー・スポーツ連盟と合同で、「就学前児童のためのゴロトキー」⁴という補充教育プログラムを作成している。ソビエト時代のアニメ「おい、待て！」のカバの絵がシンボルマークとして表紙を飾るこのプログラムのブックレットでは、このゲームの幼児の心身の発達への効果について次のように説明している。

ゴロトキーは大衆の遊びであり、多くの両親にとって子どものころからの馴染みのものである。スポーツの要素も身体強化の要素も兼ね備え、コミュニケーション力も育む。ゴロトキーは子どもの集中力を高め、外部情報の伝達・処理を行う神経の働きを強化する。子供たちはいつもの散歩では禁止されていることがこの遊びではできる：棒で遊ぶ、棒を投げる、走る、大きな声で叫ぶなど。自然に感情を解放できる。ゴロトキーは子どもに内的規範を教え、粘り強さを鍛える。タイミングを見計らい正しい判断をすることを教える。さらに家族の娯楽ともなり、世代間をつなぐ働きもある。身体的、心理的、社会的な豊かさがこの遊びの基盤にある。(«Программа дополнительного образования «Городки для дошкольников»»: 3)

次に、幼稚園で実施する際の指導プランの実例を見てみよう。

②【指導プランの例】

【表1】は、モスクワ州にある65番幼稚園で作成されたゴロトキーの指導プランである。教育省と連盟が合同で作成したプログラムの規定に沿って作られた基本的なスタイルといえる。二年間で体系的、また段階的に学んでいけるように組み立てられている。この幼稚園では14の補充教育プログラムを有料で行っており、ゴロトキーもその一つである。興味のある子どもが自由に参加するシステムとなっている。(«Платные образовательные услуги»)

3 幼児における「補充教育」とは、幼児の多方面の成長、また調和のとれた発達をめざすもので、子どもたち一人ひとりの能力や才能を見出し伸ばそうとするものである。そのため芸術やスポーツを中心に多様な分野で行われている。幼児だけでなく、生徒、学生、大人対象のものがある。日本でいえば学習塾やスポーツ施設などの役割にあたるといえる。

4 就学前児童の対象は5-7歳とされている。

【表1】

名称	補充教育クラブ「幼児のためのゴロトキー」プログラム 2016年
実施幼稚園	モスクワ州セリャチノ村 公立第65番幼稚園 責任者 体育教師 L.プガチ
実施期間	2年間
授業回数	1年目 5-6歳：1回/週（年間30回） 2年目 6-7歳：2回/週（年間60回）
人数	1グループ10～15人
授業時間	1回あたり25～30分
授業内容	年長児から開始。1回の授業は25～30分で2年間実施。全部で90回
	1/3（30回）は基本運動。遊びのしぐみを知る、コートや道具、ルールや用語に親しむ。バットの投げ方を知る。年度末に試合。
	2/3（60回）は技術的な要素を学習。年度末に試合を行う。
2年間の授業構成	第一部：準備 整列。体操。基本的運動。ゴロトキーの動きへの準備。 主要部：様々な動きの練習。ゴロトキーの歴史を学びルールを知る。 安全にやるための決まり、動きの性質を学ぶ。 まとめ：授業の成果をまとめ活動の評価を伝える。保護者会開催。
評価	年間で握力や飛距離などのデータを取り、基準に沿って達成度を評価。
参照	https://sch902.mskobr.ru/novosti/sohranyaem_narodnye_tradicii_igraya_v_gorodki/

【表2】はサンクト・ペテルブルク第37番幼稚園での年少児へのアプローチの例である。連盟での規定によるとゴロトキーの対象年齢は5歳以上となっているが⁵ 【表2】のサンクトペテルブルクの例では、「ルールやアプローチを年少児（3-4歳）対象のものにアレンジして実施しつつ、ゴロトキーの要素をうまく取り入れることができた」と報告されている。また「今後、この同じグループを対象に、より発展させた形で実施する計画がある」ということで本来のプログラムへつないでいる。内容は、プログラム名称にある通りゴロトキーがどんな遊びであるのかを「紹介」することがメインになっている。本格的にゲームをするのではなく、イラストやビデオでイメージを与えたり、音楽をきく、手で触れるなど、感覚を重視したやり方を工夫し、またゴロトキーの動きを遊びの中でやってみる、など、前段階としての教育の充実をはかっている様子が見えがえる。また【表1】、【表2】のいずれの場合も子どもたちへの安全のきまりと指導が重視されており、なぜそのきまりがあるのか、なぜ守らなければならないかということも遊びの1つの要素として学ぶことができる。又、導入部では必ずゴロトキーの歴史を教えるという連盟の規定があるが、

5 ロシアでは普通幼稚園には3歳から入れ、(法的には生後2か月から入れるが) 基本的には3-4歳を年少、4-5歳を年中、5-6歳を年長、6-7歳を就学前準備というグループ分けとなっている。

【表2】

名称	「ゴロトキー」の紹介 2017年
実施幼稚園	サンクトペテルブルク国立第37幼稚園 責任者A.プダシヨク
実施期間	短期
参加者	年少児、養育者、体育教師、保護者
目的	「ゴロトキー」遊びを知る。基本の動きができる。体育への関心喚起
課題	1. ゴロトキー遊びのイメージを作り、主なルールを知る 2. 安全を守る決まりに対する学び 3. バットの投げ方を練習 4. 新しいことば（用語）の修得（語彙を増やす） 5. 的の組みたて方を学ぶ 6. 的を使って形や大きさをくらべができる
子どもたちとの関わり	1.体力増進 ストーリーのある朝の体操。ゴロトキーの要素を用いた運動遊び。軽い道具を使ってゴロトキー遊び。 2.知識を増やす お話「ゴロトキーはロシアの遊び」 自分で的を並べ。イラストや選手のビデオを見る。 3.社会性 安全のきまりについてのお話。打つ動作のある遊び。 ビデオクリップを見る。簡単な用語を学ぶ 4.ことばの発達 アニメ「おい、待て」の絵を見て受け答える。 お話「ゴロトキーについて知っていること」 5.芸術面の発達 的を粘土で作る。アニメ「おい、待て」の曲でダンス。
保護者との関わり	保護者会を開き、ゴロトキーに関するミニ展示を見てもらう。 保護者用のコーナーにゴロトキーの資料を並べる。
制作活動	ゴロトキーの的をテーマに、子どもたちの作品展をやる。 写真新聞、ゴロトキーのイラストカードなどの展示
まとめ行事	運動場でのお楽しみ会、職員会議での発表
参照	https://nsportal.ru/detskiy-sad/applikatsiya-lepka/2017/09/09/pasport-proekta-gorodki

これはゴロトキーが真にロシア古来の遊びとして長く愛されてきたことを伝える中で、自分の国を大切に思い歴史や文化・伝統を敬う気持ちを教えているもので、ゴロトキー教育が単に身体的な発達を促すだけでなく国の文化の保存と伝承にもつながるという一面を示している。

③ 【実施の例】

幼稚園での授業や大会、指導者向け講習の開催例を紹介しよう。

【例1】2019年2月14日、モスクワ市南部にある国立第902番学校の幼稚園部で補充教育「ゴロトキーで遊ぼう」が開催された。ゴロトキーのコースには2つのグループが設定

されていて、それぞれ週に1回の授業がある。内容は、ゴロトキーのはじまりの歴史や有名なスポーツ選手の紹介、ルールの確認、そして身体を動かす遊びやゴロトキーの動きを使った遊びを行う。この日は未就学児童9名が参加し、簡単なものを自分で並べられるようになり、バットの扱い方も学んだ。担当教師は、「モチベーションを持ち続けてもらえるよう、またチームへの帰属意識や団結心、達成感などを学んでもらえるよう努めた。」とのことだ。2017年には園の主任教師がモスクワ市立教育大の教員と共著で「未就学児へのゴロトキー教育」を出版している。（«Сохраняем народные традиции, играя в городки» [2019]）

【例2】 コーカサス山脈のふもとにあるエセントゥキ市（スタヴロポリ地方）の例である。

2019年2月24日、第28幼稚園「コロソク」でスポーツ大会「ほく・わたしのパパは最高！」が開催され、父親参加のゴロトキー大会が行われた。7名の年長児グループの父と息子が参加した。2月23日の「祖国防衛の日」に合わせて行われた（この日はロシアでは公式に「すべての男性の日」と言われている）。この幼稚園では5年前にモスクワ州の連盟と協定を結びゴロトキーを教育に取り入れている。今年5月にも「国際家族デー」に合わせ教師向けのセミナーと家族対抗のゴロトキー大会を催し4家族が参加した。（«Спортивное соревнование в городки «Мой папа самый лучший! »» [2019]）

【例3】 モスクワ市の企業系幼稚園の例である。ガスプロム系列幼稚園「ゾロトイ・ペトウシヨク」はモスクワゴロトキー連盟との協定を締結し『ゴロトキーで遊ぼう』プロジェクトを共に進めるパートナーとなった。この一環として2018年3月25日にイベントが開かれ5-7歳の園児22名が参加した。連盟から幼児トレーナーらが訪れ、遊び方のプレゼンテーションや道具の説明をした。その後、子供たちは実際にゲームを体験した。このプロジェクトには子供たちへの教育だけでなく、園の教師たちに向けた指導方法の講習も含まれている。今後、ガスプロムで行う戦争記念行事でもゴロトキー大会を催すことで合意されているが、こうした巨大企業とのつながりにより、ソビエト時代にはゴロトキーの大きな発展の契機となってきた経緯があるため、今後の展開が期待される。（«Игра в городки» — спорт и патриотическое воспитание» [2018]）

【例4】 モスクワ西部にある第1371番学校「クリラツコエ」を会場に2019年3月30日、大規模な大会が行われた。モスクワ杯家族対抗戦「パパとママとほく・わたしはゴロトキー家族」である。モスクワ市教育局とモスクワゴロトキー・スポーツ連盟の共催で行われ、園児を中心に75チームが参加した。3つの年齢別グループがあり、①就学前児童とその家族（46チーム） ②小学校1.2年生とその家族（16チーム） ③～小学校3.4年生とその家族（13チーム）のそれぞれが家族単位で参加した。「家族」でゴロトキーに親

しむこと、家族間・世代間のコミュニケーションというものもゴロトキーの重要なテーマのひとつとなっている。このような大きな大会は、モスクワ連盟では年間に三種類行っており、今回の家族対抗戦は、国内大会と国際大会が1回ずつ、園児対象のモスクワ連盟会長杯が春と秋に1回ずつ開催、幼稚園教師対象のモスクワ杯が春と秋に1回ずつ開催されている。サイトやSNSで広く呼びかけている。（«Папа, мама и я – городошная семья»）

【例5】「体育教師のためのゴロトキー（実習講習）」の例である。モスクワ州クビンカ市第17番幼稚園で「5-7歳の就学前児童へのゴロトキー教育」の理論とメソッドを学ぶ実践講習が行われた。24名の体育教師が参加し、指導技術を学んだ。この実践講習は3か月間行われ、計18時間の学習となった。今回の受講者は、一か月前にゴロトキー教育に関する座学セミナー『未就学児のためのゴロトキー』（70名参加）を受けており、その際ゴロトキーの持つ身体的・精神的教育的効果に賛同したことから、引き続きこの実践講習へ進むことを希望したものだ。主催はモスクワ州のゴロトキー連盟とパーク・パトリオット（愛国公園：モスクワ郊外にある愛国と軍隊文化のテーマパーク）であった。2017年秋に第17番幼稚園はゴロトキーの教育が園の愛国教育と家族ぐるみのスポーツ推進にふさわしいとして、園の教育計画に決定した。パーク・パトリオットは幼稚園にコートの提供などの支援をしている。（«Знать и уметь! Реализуем программу «Городки для дошкольников»» [2018]）

【例6】こちらも講習に関するものである。モスクワ郊外イストラ市にあるイストラプロフェSSIONALカレッジ（モスクワ人文技術大学支部）の体育専攻の大学生に向けて、幼児教育にゴロトキーを導入するための講習が行われた。このカレッジでは就学前児童と小学校低学年を教える教師を養成している。会場は17番幼稚園で行われ、モスクワゴロトキー連盟の担当者が子どもたちへの指導のデモンストレーションを行ったあと、学生と幼児と一緒にゴロトキーを体験した。（«Семинар-практикум «Городки для всех. Инновационные подходы в современном дошкольном дополнительном образовании»»）

これらの例のように、現在モスクワゴロトキー連盟では、ゴロトキーの指導者育成に取り組んでいる。「モスクワにおける幼稚園・学校の教師のための教育プログラム（Обучающая программа для преподавателей детских садов и школ Москвы）」を作成し、こうした無料セミナーを展開している。ゴロトキーへの関心の高まりと共に子どもたちのゴロトキー競技人口が増えてくるに従い、指導者不足が問題となってきたためだ。

同時に、単に試合で判定ができるだけでなく青少年に教えることができるような有能な審判員の不足も重要な課題となってきたという（Чельшев А. В. [2017 b]）。多くの教師たちのセミナーや実習講習への参加は、幼児に対するゴロトキー教育への関心の高さを表している。各地で良い指導者が育ってくることにより、一層幼児へのゴロトキーの普及が見込まれることはもちろん、ゴロトキー・スポーツの振興を促進していくための大きな地盤作りとなるだろう。

(3) 障害を持つ人・高齢者とゴロトキー

次にゴロトキーの「近づきやすさ」「垣根のなさ」を示す事例として、障害を持つ人たち及び高齢者がゴロトキー・スポーツに関わっている事例についても紹介しよう。

リハビリセンターや高齢者・障害者施設での催し、そのほか大会やフェスティバルなどについて紹介する。

【例1】 スベルドロフスク州立障害者リハビリセンターで2014年5月19日、利用者を対象にゴロトキー大会を行った。参加者は車椅子利用者も含め16名だった。まとの数は2つにして難度を低くした。参加者は遊びを気に入ったため、今後も同様の試合を行うことになった。（«В центре реабилитации развернулась битва за «города»» [2014.5.19]）

【例2】 サンクトペテルブルク市で2019年6月4日、第10回地区対抗障害者ゴロトキー・オープン選手権「勝利の島」が開催された。市内の11の地域からチームが参加した。主催は地元の「障害者社会リハビリセンター（大人と子ども）」とサンクトペテルブルクゴロトキー連盟、地元の自治体政府である。第一部は地区毎の団体戦、第二部は男女に分かれての個人戦を行った。まとの数は5つに減らした。多くの参加者は初めての体験であったので、まとを少しでも倒せると非常に喜んだ。お互いの健闘をたたえ合いながら楽しんで戦った。（«Кронштадтцы приняли участие в X Открытом турнире по городошному спорту» [2019]）

【例3】 2016年7月23日、ノボシビルスク市のスタジアムで障害者のためのゴロトキー大会「2016 夏」が行われた。車椅子利用者も含め男女11人（12歳以上）が参加した。主催は、州立障害者センター（自立した生活《フィニスト》）、ノボシビルスク市、ノボシビルスク・ゴロトキー連盟であった。市が選手の送迎を行い、ノボシビルスク連盟からは役員が審判を務めた。今回初めて視覚障害の人たちの参加があったため、まとに当たったら鈴の音が鳴るような工夫がなされた。（«Соревнования по городошному спорту среди

инвалидов» [2016]) グループは車椅子利用者の男性／女性、立位の男性／女性、視覚障害者の男性／女性と、6つのグループに分かれた。

【例4】2019年7月2日、ヤロスラブリ州立ルビンスク高齢者・障害者施設の敷地内の広場でゴロトキーの大会を行った。対戦相手は精神神経病施設の利用者たちだった。皆、闘志を燃やして戦い、雨が降り出しても続行した。(«Городки» [2019])

【例5】2019年6月8日、ハバロフスク地方コムソモールスク・ナ・アムール高齢者・障害者施設でゴロトキーの大会が行われた。参加者は施設の入居者で車椅子利用者を含む10人であった。入居者同士の交流を深め、スポーツへの関心を高めた。(«Соревнования по игре в городки» [2018])

【例6】2018年10月11日、サラトフ州立バラショフ高齢者・障害者施設のホールでゴロトキー大会を行った。参加者は入居者で、車椅子の利用者もいた。参加者たちは投げの技術も正確なねらいも素晴らしく良い結果が続いた。そのため、参加する人にも応援する人にもやる気と活力が生まれた。試合中、見学者は大きな声で励ましの声をかけ、ホール内には冗談と笑い声が響いた。(«В Балашовском доме-интернате играли в «Городки» [2018])

【例7】ノボシビルスク市で、2018年7月27日「ノボシビルスク市視覚・聴覚障害者のキュッカ選手権大会」が行われた。主催はノボシビルスク・ゴロトキー連盟、共催はノボシビルスク市スポーツ局、地元のスポーツ施設であった。視覚・聴覚障害者30名以上が参加した。男女(大人と子ども混合可)4名でチームを構成した。

「キュッカ」というのはフィンランド・ゴロトキーあるいはカレリア・ゴロトキーと呼ばれる、フィンランドのカレリア地方で人気の昔遊びである。一見、ゴロトキーとよく似ているがルールが異なっている⁶。ゴロトキーよりも易しいことから、ノボシビルスクでは人気がある。(«Городошный спорт расширяет возможности» [2018])

【例8】2019年6月5日、ノボシビルスク市のフェスティバル「スポーツを通じてアクティブに長生き」の一環で高齢者のゴロトキー大会が行われた。市内各地から7つのチームが参加した。チームの人数は4名で性別は問わない。主催は社会団体「ノボシビルスクの功労者の体育とスポーツ」、後援は、「退役軍人・勤続労働者と司法機関退職者による公的団体」と市役所の体育・スポーツ局である。このフェスティバルは健康な生活と年金生活者の生活向上を目的として2011年より毎年ノボシビルスクで開催されている。対

6 大きく違う点は、的となる円筒形の木を個人戦では10組(団体戦では20組)用いて横に並べることと、コートを描く必要はなく20m×5mの平らな場所があればどこでもできることだ。ゴロトキー・スポーツの世界選手権には3つの種目があり、それはクラシックゴロトキー(ロシアのゴロトキーをこう呼ぶ)、フィンランド・ゴロトキー、ヨーロッパ・ゴロトキー(ドイツ)となっている。

象年齢は女性は55歳以上、男性は60歳以上である。現在ゴロトキーを入れて12種目のスポーツ（卓球、ボウリング、クロスカントリー、バレーボール、ライフル射撃、ピリヤード、水泳、混成競技、陸上、ゴロトキー、チェッカー、チェス）が行われている。

（«Команда Ленинского района победила в соревнованиях по городкам» [2019]）

【例9】2019年6月5日、モスクワ市パラ・スパルタキアードの一環でゴロトキー・スポーツの団体戦決勝がスヴィブロヴォ行政区のコートで開催された。ゼレノグラード行政区が優勝した。（«В Свиблово прошли командные соревнования по городошному спорту в рамках Параспартакиады инвалидов» [2019]）

【例10】2017年5月2日、モスクワ市クリュコヴォ地区で「クリュコヴォ地区退役軍人協議会」が行う第7回複合スパルタキアード「スポーツ長寿2017」の枠内でゴロトキーが行われ、31人が参加した。（«Соревнования по городошному спорту пршли среди первичных Советов ветеранов района Крюково» [2017]）

【例11】2017年11月18日、ノボシビルスク市で障害者のゴロトキーフェスティバル「ゴロトキーに垣根はない」が行われた。ノボシビルスク各地から9チームが参加した。聴覚、視覚障害者や筋骨格系損傷者（車椅子）が参加した。主催はノボシビルスク市の「スポーツの街」部であった。（«Городки без границ» [2017]）

【例12】2016年8月24日、ウリヤノフスク市でロシアゴロトキー連盟会長杯障害者ロシア全国大会が行われた。これは民族スポーツ・非オリンピック種目フェスティバルの一環である。ウリヤノフスク市、フォミトロフグラード、チェチェン、モスクワ、モスクワ州から37名が参加した。その内3名が筋骨格系損傷者であった。主催はウリヤノフスク州スポーツ省とウリヤノフスク市体育・文化委員会、後援はロシアゴロトキー連盟である。10種類のまどが使われた。優勝はモスクワ州であった。（«Всероссийские русские городки» [2015]）

【例13】2016年3月21日、キーロフ州ヴァツキエ・ポリャニ市で高齢者のゴロトキーロシア全国大会が行われた。団体戦と個人戦が行われ、個人戦では65歳-69歳の部と70-74歳の部の年齢グループに分かれて行った。65歳-69歳の部ではサンクトペテルブルクのE.アルタモノフ⁷が優勝した（«Ветераны городошного спорта Санкт-Петербурга – победители первенства России» [2016]）

7 E.アルタモノフ（E. Артамонов）はゴロトキーのスポーツマスター（1967）であり、国際ゴロトキー・スポーツ連盟会長（1998-2012）、ロシアゴロトキー・スポーツ連盟会長（1995-1999）を歴任し、現在はサンクトペテルブルク連盟の会長を務めている。

5. 終わりに——今後の展望

これまでゴロトキー・スポーツの歴史や、昨今の状況について幼児教育における取り組みや障害のある人々の事例をとおして考え、次のことが明らかとなった。

ロシアの民衆の遊びであったゴロトキー・スポーツは、黄金期と衰退の時期を経て、現在ロシアの大都市を中心に再び活発になり、発展を続けている。競技スポーツ、レクリエーションスポーツとしての両面を持つゴロトキーの効果や魅力が再認識され、幼児教育の教育現場で採択され活用されている。また、障害のある人や高齢者にもスポーツの一つとして浸透していることが確認できた。習熟したアスリートとしてトレーニングを積んでいる人にはゴロトキーの競技性が、身体機能の改善に取り組んでいる人にはこのスポーツの親しみやすさがマッチして人気を呼んでいると言える。

一方、課題として、指導者不足の問題も認識され、指導法の普及と指導者の育成に力を注いでいる最中であることがわかった。また大都市以外の小規模な街での再生と拡がりの促進についてもこれからの課題として存在している。

参考文献

- Бейгель О.А., Быков А.В. [2016] «Спортивные игры как средство физического воспитания детей дошкольного возраста», *Международный научный журнал «символ науки» №11-2 ISSN2410-700X* (確認2019.7.15)
- Ванюшкин В.А., Тарасевич И.В. [2017] «Современные тенденции развития городского спорта в Российской Федерации и Свердловской области», *Актуальные вопросы развития и научно-методического обеспечения национальных видов спорта и народных игр Республики Саха (Якутия) : Материалы всероссийской научной конференции с международным участием*, ЧГИФКИС, 2017, Якутск, С.48-50 <https://e-academy.sportacadem.ru/student-portfolio/4521.pdf> (確認2019.7.20)
- Горбатов А.В., Ревакин Ю.Т. [2007] «Управление физической подготовкой спортсменов-городошников 10-15 лет на основе использования модельных характеристик», *Вестник ТГПУ. 2007. Выпуск 5 (68). Серия : Педагогика (Физическая культура...)* С.56-61 https://vestnik.tspu.edu.ru/files/vestnik/PDF/articles/gorbatih_a._v._56_61_5_68_2007.pdf, (確認 2019.7.1)
- Данилова В.В., Старцева Г.Р. [2017] «Русские народные спортивные игры», *международный научный журнал «инновационная наука», №1-2/2017*, С.206-207, ISSN2410-6070 (確認2019.7.20)
- Деревенский Б.Г. [2008] «История игры в городки. Происхождение игры : легенды и исторические факты», *Альманах «Русский мир» №1, СПб* <http://almanax.russculture.ru/>

- archives/516 (確認2019.7.20)
- Ефимова Е.А. [2015] «О месте подвижных игр в жизни современных детей», *Международный научно-исследовательский журнал № 11 (42), Часть 4, Декабрь, Екатеринбург*, С.108-113, ISSN2303-9868Print (確認2019.7.20)
- Журбенко С. М. [2011] «Элементы городского спорта на уроках и во внеурочной деятельности (5-11-й классы)» <http://gorodki-russia.ru/programs/elementy-gorodoshnogo-sporta-na-urokakh-i-vo-vneurochnoy-deyatelnosti-5-11-y-klassy/> (確認2019.8.20)
- Карташова Е.В., Карсаева Е.Н. [2018] «Городки и городошный спорт в восприятии обучающихся нефизкультурного вуза», *Ученые записки университета имени П.Ф. Лесгафта, 2018. №3 (157)*, С.165-169, <http://lesgaft-notes.spb.ru/files/3-157-2018/p165-169.pdf> (確認2019.7.31)
- Ковалевский А.К. «Обогащение двигательного развития детей старшего дошкольного возраста при использовании игры «городки»» (Автореферат диссертации на соискание ученой степени кандидата педагогических наук, Екатеринбург, 2005) http://static.freereferats.ru/_avtoreferats/01002830105.pdf (確認2019.7.10)
- Левко Д. [2013] «Ах как хочется ворваться в городок» <https://www.rbc.ru/newspaper/2013/11/22/56c019439a7947299f72d98d> (確認2019.8.25)
- Литвинова М.Ф. [1986] *Русские народные подвижные игры : Пособие для воспитателя дет. сада*, М., Просвещение
- Мелькова Н.Ю., Трескин А.В. [2017] *История физической культуры и спорта : учебник*, М., Спорт
- Мостаява Т.Н., Дёмочкина Т.Н. [2016] «Подвижные игры-основное средство формирования координационных способностей», *Наука-2020*, С.243-247 <https://cyberleninka.ru/article/n/podvizhnye-igry-osnovnoe-sredstvo-formirovaniya-koordinatsionnyh-sposbnostey> (確認 2019.7.10)
- Осипов Ю.С. (пред.ред.) [2007] *Большая Российская энциклопедия*. М., Т.7. С.476
- Пахомова Л. [2013] «Народы России глазами Емельяна Корнеева» http://www.elabuga.com/expositionHall/_peoplesOfRussia.html (確認2019.7.03)
- Покровский Е.А. [1997] *Детские игры : преимущественно русские*, М., ТЕРРА ; Книжная лавка – РТР
- Фирсова Л.М. [1989] *Игры и развлечения 1*, М., Молодая гвардия
- Чельшев А.В. [2017а] ФГСМ «Интервью Президента Федерации»: «Городки были и будут массовым видом спорта». http://www.mosgorodki.ru/O_federacii/intervyu_prezidenta_federacii/ (確認2019.8.25)
- Чельшев А.В. [2017б] ФГСМ «Интервью Президента Федерации»: «Городки были и будут массовым видом спорта». http://www.mosgorodki.ru/O_federacii/intervyu_prezidenta_federacii/ (確認2019.8.25)
- Шангина И.И. [2000] *Русские дети и их игры*, СПб, Искусство-СПБ
- Якуб С.К. [1988] *Вспомним забытые игры*, М., Детская Литература
- «В Балашовском доме-интернате играли в «Городки»» [2018]

- <http://balashovdi.ru/news.php?id=520> (確認2019.8.25)
- «Ветераны городошного спорта Санкт-Петербурга – победители первенства России» [2016] https://www.gov.spb.ru/gov/otrasl/c_physic/news/83757/ (確認2019.8.25)
- «В Свиблово прошли командные соревнования по городошному спорту в рамках Параспартакиады инвалидов» [2019] <https://zelsport.ru/blog/2018/05/v-sviblovo-proshli-komandnye-sorevnovaniya-po-gorodoshnomu-sportu-v-ramkah-paraspartakiady-invalidov> (確認2019.8.25)
- «В центре реабилитации развернулась битва за «города»» [2014]) <http://ocri.ru/news/1661> (確認2019.8.25)
- «Всероссийские русские городки» [2015] <https://moovoi.org/sport/806-vserossijskie-russkie-gorodki> (確認2019.8.25)
- «Выступление виталия Мутко на расширенном заседании коллегии минспорта россии, посвящённом 90-летию со дня образования федерального (государственного) и территориальных органов исполнительной власти в сфере физической культуры и спорта в россии». [2013] <https://www.minsport.gov.ru/press-centre/speeches/6628/> (確認2019.8.25)
- «Городки» [2019] <http://rybdi.ru/10-news/1553-gorodki-2> (確認2019.8.25)
- «Городки без границ» [2017] <http://novosib-sport.ru/index.php?menu=6643> (確認2019.8.25)
- «Городошный спорт расширяет возможности» [2018] <http://novosib-sport.ru/index.php?menu=7639> (確認2019.8.25)
- «Заседание Совета по международным отношениям» [2013] <http://kremlin.ru/events/president/news/17536> (確認2019.8.25)
- «Знать и уметь! Реализуем программу «Городки для дошкольников»» [2018] <https://patriotp.ru/novosti/znat-i-umet-realizuem-programmu-gorodki-dlya-doshkolnikov/> (確認2019.8.25)
- «Игра в городки» — спорт и патриотическое воспитание [2018] <http://moskva-tr.gazprom.ru/press/news/2018/03/344/> (確認2019.8.25)
- «История» <http://gorodki-russia.ru/istoriya/> (確認 2019.8.25)
- «Команда Ленинского района победила в соревнованиях по городкам» [2019] <http://novosib-sport.ru/index.php?menu=8864> (確認2019.8.25)
- «Кронштадтцы приняли участие в X Открытом турнире по городошному спорту» [2019] https://www.gov.spb.ru/gov/terr/reg_kronsht/news/166987/ (確認2019.8.25)
- «Москва готовится принять Международный спортивный форум» [2010] <https://ria.ru/20100517/235272345.html> (確認2019.8.25)
- «Папа, мама и я – городошная семья» <http://www.mosgorodki.ru/news/497.html> (確認 2019.8.25)
- «Первый всероссийский фестиваль национальных и неолимпийских видов спорта завершился в г. Ульяновске» [2014] <https://www.minsport.gov.ru/press-centre/news/7221/> (確認2019.8.25)
- «Платные образовательные услуги» https://nfdou65.edumsko.ru/finance/paid_services (確認 2019.8.25)
- «Программа дополнительного образования «Городки для дошкольников» : <https://docplayer.ru/36338702-Gorodki-dlya-doshkolnikov.html> (確認 2019.8.25)

- «Путин сыграл в городки» [2006] <https://www.vesti.ru/doc.html?id=83661> (確認2019.8.25)
- «Сохраняем народные традиции, играя в городки» [2019] https://sch902.mskobr.ru/novosti/sohranyaem_narodnye_tradicii_igraya_v_gorodki/ (確認2019.8.25)
- «Спортивное соревнование в городки «Мой папа самый лучший!»» [2019] <http://kolosok28.ru/novosti/sportivnoe-sorevnovanie-v-gorodki-moj-papa-samyj-luchshij.html> (確認2019.8.25)
- «Семинар-практикум «Городки для всех. Инновационные подходы в современном дошкольном дополнительном образовании»» <http://ipc.edusite.ru/p649aa1.html> (確認2019.8.25)
- «Соревнования по городошному спорту среди инвалидов» [2016] <https://novo-sibirsk.ru/news/56244/> (確認2019.8.25)
- «Соревнования по игре в городки» [2018] <https://www.mszn27.ru/node/44119> (確認2019.8.25)
- «Соревнования по городошному спорту пришли среди первичных Советов ветеранов района Крюково» [2017] https://krukovo.mos.ru/presscenter/news/detail/5815817.html?sphrase_id=184653823 (確認2019.8.25)
- «Федерация Городошного Спорта России» <http://gorodki-russia.ru/> (確認2019.8.25)
- «Международная Федерация Городошного Спорта» <http://www.gorodki.org/IFGS/index.htm> (確認2019.8.25)
- «Федерация Городошного Спорта города Москвы» <http://www.mosgorodki.ru/> (確認2019.8.25)
- 里見悦郎 [1991] 『最新ソビエトスポーツ研究—その歴史と制度』 不昧堂出版
- 坂内徳明 [2014] 「ロシア風俗百景 J.A. Atkinson and J. Waker, A Picturesque Representation of the Manners, Customs, and Amusements of the Russians (V. 1-3, London, 1803-04, 1812) について」, 一橋大学社会科学古典資料センター年報, 34, PP.1-24, <http://doi.org/10.15057/26555>
- 盛岡修一 [2017] 「ロシアにおける文化的多様化と教育改革—補充教育および教師教育を中心に—」 『人間生活文化研究』 No27 PP.286-295 http://journal.otsuma.ac.jp/2017no27/2017_286.pdf (確認2019.8.16)